遂に捕まった！

debuhen

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
遂に捕まった！

【Ｎコード】
Ｎ８０２０Ｎ

【作者名】
ｄｅｂｕｈｅｎ

【あらすじ】
人生には苦渋の選択が付き物である。人間はそれら苦渋の選択に対して何らかの答えを出す。苦しくても未来に繋げるための答えを出すものもいれば、安易な選択を行い「楽」を追い求める者もいる。主人公である「楽太郎」は後者を常に選んできた人物である。そんな彼の人生を描き出す作品である。

（前書き）

楽太郎　社会人1年目　現在２３歳である。
現代を生きるニートという存在に非常にあこがれています。

私の名前は楽太郎。

親に名前の由来を聞いてみたことがあるが、人生を遊んで暮らせるような稼げる人間になって欲しいから、楽という漢字を使った楽太郎という名前にしたらしい。

が、実際はそうもいかないものだ。

今の私の信条は「明日できる事は明日する」だった。

私が中学生1年生になった時だ。入学して最初に行ったことは実力テストの実施である。

中学生といえば英語の授業が始まるためか、ローマ字を書くテストが出ていた。

私が小学6年生をやっていた時に、ローマ字ドリルの様な物で英文字に慣れる授業をしていた記憶があるが、私はそれらをさぼっていた。

当然だが、ローマ字はほとんど書けなかった。

皆無と言っても良い。

普通はそこで「これはまずい」と思って勉強する様だが、生まれてから自分の部屋で自主的に机に向かう習慣もない、塾に通ったこと

もない私にはそれは無理な話だった。

私が高校生3年生の時だ。

高校を選ぶ時には学力に合った高校、金のかからない公立という基準で選んだ私だが、大学ではそうもいかなかった。

なぜなら、今までほとんど受験勉強なんてものをしていないからだ。普通、高校3年生ともなれば試験に向けて毎日1時間勉強、もしくはそれを塾で行う様だ。

しかし私は前述した通り何もしなかった。

そんな私が低レベルとは言え、大学に入学するのは望み薄だと思っていた。

担任からは進路を1週間後までに「進路希望用紙」に書いて提出する様言われている。

春の間に色々な学校説明会が開かれていたため、私も受ける気はなかったがいくつかの大学説明会に参加をしていた。

そんなある日、コンピュータ関係の専門学校に関する説明会があった。

私は当時（今もよくやるが）オンラインゲームをしていたため、少なからずコンピュータには興味があった。

入学に際してはテストなどなし！授業料のみお支払い下さい！と謳われていた。

特にやりたい事もなかった私は、安易な気持ちでその説明会に参加し、進路希望用紙にも「コンピュータの専門学校」と記入をして提出した。

私が専門学生2年の時だ。

専門学校と言えば1年制、もしくは2年制が普通の様だが、少しでも遊んでいたかった私は3年制のサーバ系の技術を専門とする学部にいた。

この専門学校では、高校などと似たように５０分×６の授業を毎日行っていた。

当然、テストもある。

私は当然勉強するはずもなく、似たような学部で似たようなテストを先に受けていた連中からテストに関する情報を横流ししてもらったりして、試験を次々とクリアしていった。

そして専門学生3年の時だ。

遂に就職活動が始まる。

とある先生が言っていた言葉だが、「冬のスーツを買ったら負け。どちらの季節でも着れるもの、もしくは夏のスーツを買え」との事

だった。

私は納得する。

夏が終わればほとんどの企業は学生を採用しなくなる。

私としても親にニート宣言する訳にもいかず、とにかく自分の能力に合っていそうな企業に説明会の片っ端からエントリーを行った。

採用試験に関しては何通りかパターンがある。

面接だけで済むもの、１次試験（ＳＰＩと言うらしい）を通過後に面接を行うもの、面接はなく技術試験のみという３パターンだ。

注意点だが、一口に面接と言っても６次まである場合もあるというのだから驚いた。

結果は惨敗。

当然だ。

別にその企業に入りたいわけでもなく、やりたいことがあったわけでもないのだから。

面接ではことごとく反応が悪かった様に思う。

時々試験管に笑顔を返されて、「これは合格しただろ、ＪＫ」と思っても返事はいつも不採用ばかりだった。

もうすぐ夏が終わる季節が近づいていた。

私は焦る。

とにかく早く決めなくては。

気がついたとき、私はブラック企業の説明会に来ていた。

当然、急に自分のアピール力を変えられたはずもなく、今回も落ちただろうと思っていたある日。

採用の通知が来た。

私は喜んでいたが、親や友達からは心配する声ばかり聞こえてきていた。

兎に角だ、私はニートではなく社会人としての人生を歩み始めたのだと感じた。

そして社会人1年目である。

私は派遣系の会社に務めていた。

入社式も済ませ、後は派遣に出るだけといった感じだ。

そんな事を思っていたある日。

ニュースを見ない私にも不吉な声が届いた。

１００年に1度の大不況。

ちらほら来ていた派遣の話もぱたりと来なくなった。

私は派遣待機の状態で、今日も研修をうけている。

そんな毎日を送っていたが、１００年に1度の大不況のニュースから半年も経つと、さすがに止まっていた案件もちらほらと来だす。

そして呼ばれた私の名前。

遂に私も派遣に出るための取引企業との面接に臨む事となった。

当然最初の数社は落ちたが、だんだん面接でどんな事を言えばいいのかが分かってきた。

ある時、大手企業からネットワーク系の運用業務を行えと依頼が来た。私はサーバ系希望だったが、待機研修の際に色々学ばされていたため、ネットワーク系にも狩り出されていた。

そして採用。

大手だったからか、採用希望人数は１０人を超え、私も運良く採用された形だ。

そして派遣先での業務研修が始まった。

周りにはよく分からん技術的な話をしている人が大多数だ。

こんなところで私は仕事をやっていけるのかと不安を覚える。

そして派遣先の上司の一言。

「君たちが新人で採用されていることは分かっている。分かっているが、業務を１～１０まで全部教える事はしない。概要とかは教えるから、分からない所は各自自分で勉強するなりして覚えるように。」

社会人１年目の私が今日。

苦渋の選択から逃れられない事を知る。

遂に捕まった気がした。

（後書き）

読んで頂いた読者の方にはお礼を申し上げます。

特に文章に起伏があるわけでもなく、最後の一言を言いたいがために面白くもない文を書いてしまった気がします。

でもまあ、記念すべき1作品目なので、良ければ感想を聞かせてください。

文章力ないねーとか批判的なものでも歓迎します。

皆さんの率直なご意見をお待ちしております。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8020n/

遂に捕まった！

2010年10月10日17時25分発行